

教区通信

ふくおか

2023(令和5)年3月1日発行

Vol.139

発行

「御同朋の社会をめざす運動」  
福岡教区委員会



「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) スローガン

結ぶ絆から、広がるご縁へ

—From tying bonds to great encounters—



▲2023(令和5)年1月26～28日 親鸞聖人報恩講法要

## P4 報恩講法要法話 「悲しみから生まれた恩徳讃」

P2 教務所長挨拶

P3 中央委員会報告

P5 非戦・平和を学ぶ研修会

P6 教化団体の取り組み 門徒推進員連絡協議会

P7 法話「悲しみだけに終わらないお念仏の世界」

P8 行事予定・編集後記

## ご挨拶

## ～新年度に向けて～

福岡教区教務所長・本願寺福岡教堂主管 高原 眞見



皆さまにおかれましては長引くコロナ禍におきまして、御同朋の社会の実現に向けて、種々ご尽力いただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。

この一年は教区も様々に変化した一年でございました。昨年三月には、専門の委員会を設けて準備してまいりました教区ホームページをリニューアルし、寺院検索システムなどが充実しました。広報部を中心に今後さらなる拡充に努めてまいります。

また、昨年二月二十四日より続いていますロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻のなか、非戦・平和部では次世代を担う若手僧侶を対象にした研修会を始動いたしました。このほか教区や組におきましては「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)委員会や各教化団体の研修会、各種法要も新型コロナウイルスの弱毒化に伴う蔓延の変様とともに少しずつではありますが、感染防止対策を徹底したうえで、コロナ前のような形態へと規模を戻しつつあります。

ご本山では愈々本年三月二十九日より五月三十一日までの五期三〇日にわたり、宗祖の誕生を喜び、立教開宗の意義をたずねる「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」がおつとまりになります。各組や教化団体でも団体参拝や各種大会等が予定され

ております。教区におきましては、二〇二四(令和六)年に法要並びに寺院子弟や門徒子弟をはじめこれまでにご縁がなかった方が参加できる形での慶讃行事を検討しており、各組におかれましては二〇二四(令和六)年までに法要が予定されております。この度の五十年に一度のご勝縁を共に慶び、お念仏相続のご縁となりますことをお願いいたします。

最後に「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)については、現在の四年計画中三年が終わり、最終年度を迎えようとしています。コロナ禍により取り組みが不十分であったところもありますが、柔軟に創意工夫し対応されたこともございました。また、このコロナ禍や世界中で絶えない戦禍を通して、私たちの抱える問題が明らかになってきたことでしょう。これらも踏まえながらも自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現をめざし、新年度もともに歩みを進めたく存じますのでよろしくお願い申し上げます。

# 親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要

## 立教開宗800年

Joint Celebration

850th Anniversary of Shinran Shonin's Birth &amp; 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching

## 法要期日

2023(令和5)年

第1期 3月29日(水)～4月3日(月)

第2期 4月10日(月)～4月15日(土)

第3期 4月24日(月)～4月29日(土)

第4期 5月6日(土)～5月11日(木)

第5期 5月16日(火)～5月21日(日)



# 中央委員会報告

中央委員 渡邊 慈海 (西嘉穂組 西蓮寺)

二〇二三(令和五)年二月十日(金)、第二回実践運動中央委員会が、リモート形式にて開催されました。

まず、宗派からの報告事項として、制作したリーフレットやその配布状況、重点プロジェクトの推進状況についての説明として、

①実践目標の周知徹底および講師派遣について

②子どもの貧困問題に関する募金状況の報告と、集まった募金の支援先について

③人権啓発僧侶研修・実践運動推進協議会の実施状況などの報告が行われました。

次に、新潟・福岡・鹿児島之三教区から意見具申があり、その協議となりました。新潟教区からは、過去帳だけでなく教団内の書類全般における性別記載において、性的マイノリティの方を含め人権に配慮した性別記載方法が求められました。鹿児島教区からは、過去帳等の取扱基準に関してや、しない・させないだけでなく「身元調査は必要ない」という啓発の必要性など、五点の問題提起がなされ、一部は宗派でも検討を行う旨返答がありました。

福岡教区からは二点の意見具申を行いました。僧侶教本C(仮)を求める意見具申では、既に『差別・被差別からの解放 増補版』があるため、こちらを推奨していくという返答でした。また「浄土

意見具申全文は福岡教区ホームページ  
お知らせ欄にも掲載いたしております。



『子どもたちの笑顔のために募金』  
キャッシュレス募金はこちらを  
ご覧ください。



真宗の救いのよろこび」の再掲を求める意見具申では、『拝読 浄土真宗のみ教え 改訂版』に記載された改訂までの経緯をほぼそのまま読み上げて「軽々に変更したわけではない」というゼロ回答に近いもので、そのまま話題が打ち切られる形になったため、到底納得できるものではありませんでした。

その他、北豊教区からのSDGs輪袈裟・式章の紹介、高岡教区から平和問題(敵基地攻撃能力や防衛費の増大等の問題)に対する宗派の立場を求める等、様々に意見が出ましたが、特にオンラインではなく現地開催を希望する意見に対して、予算の都合で現地開催を渋るような返答があり、宗派中央の運動推進に対する考えに懸念を抱く協議となりました。

# 「悲しみから生まれた恩徳讃」

中村 英龍(安芸教区佐伯奥組 最広寺)

親鸞聖人が生き抜かれた平安時代から鎌倉時代は、戦と、自然災害と、疫病による苦しみが続いた時代でした。四歳の時、父上と生き別れ、八歳の時には母上と死に別れ、九歳の時には、幼い弟たちと離ればなれとなり、仏門に入られました。三十五歳の時には、「承元の法難」という専修念仏の弾圧により、師の法然聖人と生涯の別れを告げ、流刑の罪を背負い、越後へ赴かれました。

そして晩年。聖人・八十二歳、妻の恵信尼さまが七十三歳の時、現在の新潟県・越後に住む「小黒(おぐろ)の女房」と呼ばれる長女が疫病により、愛する家族を残して娑婆の命を終えられました。翌年、京の街で火災が起き、聖人は大火に焼け出されました。以後、聖人は九十年のご人生を終えるまで、弟の尋有僧都(じんうそうず)の坊舎に身を寄せて過ごされたのです。

さらに、苦難は続きます。聖人が八十四歳の時、ご子息の善鸞さまが関東で法義をゆがめ、裁判沙汰となりました。聖人は「浄土真宗」という教えを守るため、涙をこらえ、善鸞さまと親子の縁を絶ち切ってゆかれたのです。聖人も、娑婆に生きる苦悩の人間として、悲しみの現実を引き受けてゆかれたのでした。

その翌年、八十五歳を迎えられた親鸞聖人は、一つの歌を詠まれました。

如来大悲の恩徳は、身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も、骨をくだきても謝すべし

「恩徳讃(おんどくさん)」という名で親しまれるこのご和讃は、聖人の深い悲しみを通して詠まれたお歌だったのです。

昔、ある学僧から、このような話を聞きました。

浄土真宗には、いろんなご法義のお言葉があるが、「恩徳讃」ほど難しいお言葉はない…。いや、難しいのではなく、それほどに深いお心だったのだ…。

そこで私は「恩徳讃」に表された親鸞聖人のお心を、日常の言葉で、次のように味わっています。

南無阿弥陀仏の大悲は、愚かさや罪深さに包まれた私たちの命を、必ず浄土の仏と迎え取って下さる(〓如来大悲の恩徳は)。だから、どんな苦勞も厭わず(〓身を粉にしても)、私たちに届いて下さる慈悲のお心を聞かせて頂こう(〓報ずべし)。それほどに、尊いみ教えなのだから。

お釈迦さまをはじめ、浄土真宗の礎を築かれた七高僧、その他有縁の方々は、『大無量寿経』に基づき、苦悩に沈む私たちに、お念仏の道が開かれていることを教えて下さった(〓師主知識の恩徳も)。だから、どんな悲しみや苦しみもそれを仏縁として(〓骨をくだきても)、お念仏に生かされてゆこう(〓謝すべし)。それほどに、大切なみ教えなのだから。

親鸞聖人は「南無阿弥陀仏」というみ教えの中で、先立つた娘「小黒の女房」を「ほとけさま」と仰ぎ、悲しみの中に命の喜びを聞いてゆかれたのです。

「ああ、なんとありがたいことか。お念仏の人生には、別れはなかった。わが娘よ、私もお念仏に生かされて参ります。そして、娑婆の命を終える時、必ず浄土に生まれ、あなたの隣りでさとり身を連ねさせていただきます。」と。

また聖人は「南無阿弥陀仏」というみ教えの中で、親子の縁を絶ち切られた善鸞さまに、次のように呼びかけられたことでしょう。「善鸞よ、許しておくれ。娑婆の親は、そなたに寄り添うことができなかった。だからこそ私たちは、真実の親さま「南無阿弥陀仏」を仰がせて頂くのだ。お念仏の人生は、どこにあつても弥陀の懷、慈悲のただ中。これだけは、忘れてくれるなよ」と。

煩惱に包まれたこの身にどこまでも寄り添い、光を照らして下さる南無阿弥陀仏の大悲に、わが生死をゆだねて生きる。それが、親鸞聖人が九十年のご生涯をかけてお伝え下さったお念仏ひとすじの道だったのです。

どうぞ、親鸞聖人が歩まれたお念仏の大地を、私たちも一緒に歩ませて頂きましょう。

合 掌

## 第二回 非戦・平和を学ぶ研修会

非戦平和へのアプローチ—アフガニスタンから世界を見る—

非戦・平和部 倉掛 法雄(夜須組 常円寺)

二〇二三(令和五)年二月十三日、本願寺福岡教堂にて第二回「非戦・平和を学ぶ研修会」が行われました。

今回は龍谷大学学長である入澤崇さんより、二〇〇五(平成十七)年からの龍谷大学アフガニスタン仏教遺跡学術調査隊として、武装警察の護衛を伴うほどの危険な治安状況のなか現地調査・研究をもとにした講話をいただきました。

入澤先生は、マスコミ等で仏教を破壊したのはイスラムだと言われ続けてきたことに関して、それは偏見であることを冒頭に述べられました。なぜなら、イスラムの人たちが仏教遺跡を守っていたという史実を現地で確認されたためです。特にアフガニスタンのバミヤンを調査に訪れた際、そこで過激派の手によって爆破された大仏の惨状を確認された時に、破壊前一千年もの長きにわたり二体の大仏を「お父さん」「お母さん」とまで呼び大事に守ってきたのもイスラムの人たちでありました。これは先生自身も全く思いもよらなかったことで、大変衝撃を受けたとのことでした。



さらに、以前は仏教伝来の最西端と考えられていたバミヤンより百キロ以上西のケリガンに、龍谷大OBのカメラマンが訪れたことを機に調査を始められ、そこにも仏教遺跡があることを発見され

ました。そして八世紀のアフガニスタン西部にも、仏教とイスラム教が共存していた時期があったことを確認されました。先生はそれらが共存できた理由の一つとして、仏教には他宗教を否定しないという特性があることから、異民族を束ねたい権力者から重用されていたことを挙げられました。

紀元前、インドの権力者だったアシローカ王は当初は暴虐の限りを尽くしていましたが、後に改め、仏法を奉じ正しい政治を行うことで国を治め、人々からダルマ・アシローカ(法阿育)と敬愛されたとのことでした。先生はそのアシローカ王朝時代に成立した原始仏典にも注目されており、アッタカヴァッカ(スッタニパータ第四章)の研究から「人間は無自覚の利己心に支配されており、行為と心を常に自省し、利己心の消去につとめなければならぬ」と感じ取られ、「悟り」についてこれまで一般的に言われてきた「煩惱を滅する」というよりも、「悟り」とは「自己の徹底的な否定」だと受け止めるようになられたことを述べられました。

私は今回の研修を、身を賭すとも言える実体験による新たな視点に触れることができ、とても有意義な研修だったと感じています。この「非戦・平和を学ぶ研修会」は二〇二三(令和五)年度以降も開催されます。皆さまの参加を心よりお待ちしております。





# 教化団体の取り組み紹介

## 福岡教区

### 門徒推進員連絡協議会について

門徒推進員とは「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)に積極的に取り組み推進する門徒で、教区で連絡協議会が設置されています。

一日を使って午前中は総会、午後は記念講話と門徒推進員の情報交換を行うことで、各組においてより活発な活動へと繋がっています。また、年二回は朝から夕までの全員研修会を開催してきました。

二〇二二(令和四)年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、参加者を制限したうえで短時間での総会開催となりました。この総会ではご講師から「門徒推進員とは宗派の最前線に立ち、積極的に浄土真宗を伝える人」と教示されました。コロナ禍を理由にお寺への足が遠のき、お念仏の声さえも小さくなっていく日々を過ご



してしまいそうな私達に、門徒推進員としての自覚を再認識させられた思いが致しました。

全員研修会は八月二十八日の第一回は中川清昭さんを、第二回は二月十八日に河野一声さんをお招きしての開催となりました。昼食をはさんで午前中の問題提起、午後からの班別話し合いの日程で、班別話し合いは車座になって顔を見合わせての話し合いとなり、参加者の生き生きとした楽しそうな様子が印象的で、御同朋の大切さ・有り難さをあらためて実感させていただきました。

新型コロナウイルス感染症の収束はまだまだ見えませんが、今私達に出来る最大限の予防を講じたうえで、ひと時も休むことのない阿弥陀様のお慈悲に包まれながら、お聴聞の灯火を続けてまいりたいと思います。



## 一言 法話

## 「悲しみだけに終わらないお念仏の世界」

古賀 唯香(東筑組 教念寺)

煩惱、眼を障へて見たてまつらずといえども、  
大悲、倦きことなくしてつねにわれを照らしたまふといへり。

『顕浄土真実教行証文類』正信念仏偈

(『註釈版聖典』二〇七頁)

お浄土でまたあえるけれど、今またここでおじいちゃんに  
会いたい

昨年亡くなった祖母の遺品の日記に、そのように書いてありました。この日記は、祖母の連れ合いの祖父が亡くなった後すぐに書かれたものでした。

祖母は、ご法話を普段から聞いていましたので、「阿弥陀さまの世界、お浄土というところは、全てが阿弥陀さまの功德でできていて、みんな同じお浄土に生まれる事ができる。命終えたら、またおじいちゃんと会える」ということはきつと理解していたと思います。けれども、長い間一緒だった祖父との別れは、そんなことも忘れるくらい、辛く苦しいものだったと思います。その後も日記で何度も何度も「おじいちゃん」と名前を呼び、「今ここで会いたい」と書き綴っていました。

その日記が半年過ぎた頃でした。

毎日おじいちゃんと一緒がいいと思うけれど、おじいちゃんはずいぶん遠くに行つたんじゃないかな。南無阿弥陀仏と今ここに一緒にいる感じがするのですね。私の手が合せているという感じが、阿弥陀さまのお陰、おじいちゃんのお陰でした。南無阿弥陀仏  
そう綴られてありました。

悲しみに暮れることしかできなかった祖母が、手を合わせる中に祖父のことを思う事ができたのかなと思います。また、悲しさは変わらないけれども、「今ここに阿弥陀さまが一緒に、おじいちゃんも一緒に」と悲しさだけに終わらないぬくもりをお念仏から味わうことができたのだと思います。

人は必ず大切な人と別れていかなければなりません。その別れの悲しみは、胸が引き裂かれるほど苦しいものです。時に阿弥陀さまのことを忘れるくらいの悲しさに襲われることもあるでしょう。けれども、阿弥陀さまは忘れることなく、悲しいままに、ご一緒にいてくださっています。

この私も今、祖母が亡くなった悲しみを感じながらも、「阿弥陀さまが一緒に、祖母も一緒に」とお念仏の中にあたたかさを感じるご縁をいただいています。

| 月  | 日  | 曜 | 時     | 教区行事                  |
|----|----|---|-------|-----------------------|
| 4月 | 14 | 金 | 13:30 | 親鸞聖人讃仰講座(～15日迄、LIVE)  |
|    | 21 | 金 | 10:00 | 仏教婦人会総連盟総会(WEB)       |
|    | 22 | 土 | 10:00 | 門徒推進員連絡協議会 総会         |
| 5月 | 14 | 日 | 13:30 | 親鸞聖人讃仰講座(～15日迄、LIVE)  |
|    | 15 | 月 | 10:45 | 清掃奉仕                  |
|    | 23 | 火 |       | 寺族婦人会連盟 総会            |
| 6月 | 8  | 木 |       | 仏教婦人会連盟 総会            |
|    | 11 | 日 | 13:00 | 仏教壮年会連盟 総会・研修会        |
|    | 14 | 水 | 13:30 | 親鸞聖人讃仰講座(～15日迄、LIVE)  |
|    | 20 | 火 |       | 戦争犠牲者追悼法要             |
|    | 27 | 火 |       | 本願寺福岡教堂委員会<br>福岡教区常備会 |

| 月  | 日  | 曜 | 時     | 本山慶讃法要関連                                                 |
|----|----|---|-------|----------------------------------------------------------|
| 3月 | 29 | 水 |       | 親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要(第1期、～4月3日迄)<br>団体参拝日(早良、三門北、柳川) |
|    |    |   | 14:00 | 青少年教化推進者のつどい                                             |
|    | 31 | 金 | 14:00 | スカウトのつどい(～4月1日迄)                                         |
| 4月 | 2  | 日 |       | 団体参拝日(怡土、早良、嘉麻、那珂)                                       |
|    | 3  | 月 |       | 団体参拝日(怡土、早良、嘉麻、那珂)                                       |
|    | 9  | 日 |       | 第7回全国門徒推進員のつどい(～10日迄)                                    |
|    | 10 | 月 |       | 親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要(第2期、～15日迄)                      |
|    | 11 | 火 |       | 団体参拝日(福岡、怡土、宗像、八女)                                       |
|    | 13 | 木 |       | 団体参拝日(福岡、志摩、遠賀、粕屋、那珂)                                    |
|    | 14 | 金 |       | 仏教壮年会連盟全国大会団体参拝(～16日迄)                                   |
|    | 15 | 土 |       | 全国真宗青年の集い本山大会                                            |
|    | 24 | 月 |       | 親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要(第3期、～29日迄)<br>団体参拝日(三門南、下川東、鞍手) |
|    | 27 | 木 |       | 団体参拝日(宗像、東筑、西嘉穂)                                         |
| 5月 | 6  | 土 |       | 親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要(第4期、～11日迄)                      |
|    | 8  | 月 |       | 団体参拝日(早良、御笠、鞍手)                                          |
|    | 10 | 水 |       | 仏教婦人会連盟世界大会団体参拝(～12日迄)                                   |
|    | 11 | 木 |       | 団体参拝日(早良、夜須)                                             |
|    | 16 | 火 |       | 親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要(第5期、～21日迄)                      |
|    | 17 | 水 |       | 団体参拝日(上下、東筑)                                             |
|    | 21 | 日 |       | 団体参拝日(早良)                                                |

## ホームページ・SNSもどうぞご覧ください

ホームページ→



YouTube→

LINE→  
(ID:100xlzmt)Twitter→  
(@f\_hongwanji)編集  
後記

春の訪れを感じる今日この頃です。卒業、入学、花見…春にはよく耳にする言葉です。コロナ禍になって3年。皆さんはこの春をどんな思いで迎えたでしょうか？

## 発行責任者

浄土真宗本願寺派 福岡教区教務所長 高原 眞見

〒810-0055 福岡市中央区黒門3-2  
電話:092(771)9081